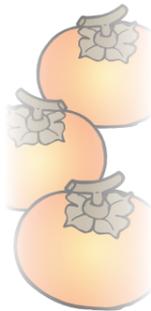


高齢者大学文芸部 11月歌会

氏神と崇めし祇園の御社に父と写れるわが七五三
安値なれど丹精込めて作る米 米は農の命なりせ
ば
今しばし吾にとどまれ山の端の夕やけこやけ幼日
のごと
岡本 トシ
秋の野を自転車こげば黄の花も葦の穂群も微風に
揺るる
北村 玉恵
秋茄子の濃き紫はつやありぬ夕べの膳に添ふる一
品
安東 綾子
栗おこわおでん凍らせあれこれと送り届けむ自炊
の孫に
中原 光子
窓際の花瓶に香るかすみ草ありとしもなき風に揺
れをり
中川 愛子
「柿もつてきたよ」と弾む友の声道八キロもペダ
ル踏み来し
雲田 郁子
整理する衣類を袋に山と詰め未練は捨てむ七十路
半ば
山城 雅子
賜はりし命にあれば粗末にはされぬと早も炬燵入
れたり
梅野かをり



万句の里俳句会 10月句会

近付けばほろほろ零る零余子かな
丸山美代子
秋晴に包まれ阿蘇の五岳かな
岩木 敬治
初鴨の即かず離れず川すべる
打出 貞
一点の雲をも置かぬ十三夜
隈部 輝子
父母の眠る丘へと野菊道
田島 房子
十三夜てふ控へ目な月愛でる
加藤 妙子
大空に大河のごとく鱗雲
北村 妙子
空井戸の闇を叩いて鳴くちちろ
平山 邦子
秘めやかに色競ひるる帰花
宮本 雅子
挽ぎたてのりんご類張る信州路
林 まつ子
穂芒の風光らせて揺れやまず
富田 幸子
縁側で夢を語りた夕月夜
茨木 幸子

肥後狂句桜会 例会入選句集より

勝手なもん 割り勘の時ア居らっさん 小川 繁美
もつてこい 便秘予防にヤサツマ芋 狩野 本六
澄み切つて はい腎臓も異常なし 高倉 新米
思い直し 親の意見にうなづかず 東 栄次
もつてこい ママは美人で男好き 須藤 新生
あゝ寒さ 菊池盆地は冷凍庫 光堀 善教
澄み切つて 心も空も日本晴れ 安武 二山
思い直し この子の為エ生き抜こう 窪田 明德

泗水短歌会 10月詠草

あゝ寒さ ふところ奴が空っぽす 田中 孝幸
勝手なもん そんなもんよネ男つて 北村 竹刀
もつてこい トイレの中でおらびよる 藤野 清子
思い直し 復縁するて決めらした 田尻 浩風
明日来ます電話の声の明るかり皆んな私の大切な
人 宮本 峯子
名月に劣らぬ夕陽太く燃え没り尽すまで見とれ足
冷ゆ 大島 ひと
九十二才の姉とすこせり敬老日悲喜こももに語
り安らぐ 平嶋きくえ
あしたへの想秘めるか紫の木槿の苔七分膨らむ 長尾はるみ
姑上の三十三年忌の佛事せり無量寿経に心しずま
る 内田つね代
老人会の一泊旅行雲仙へ海を見たくて気負はず参
加す 福原美智子
衣更へに袖を通さぬ服増えて行動範囲狭まるを知
る 増田久美子
土手覆うセイタカアワダチ花盛る稔り田の黄と対
をなすがに 高藤タツノ
湿原の板橋くだり返り見る八甲田山は深みいく秋
吉安 永子

せせらぎ俳句会 10月例会

奥阿蘇の夕べの窓の初しぐれ
内村 泊虹
何の碑か寄れば色なき秋の風
藤本 邦治
枝豆を娘と向ひ合ひ語り合ひ
坂本まつえ
若き葉も共につけたる返り花
藤本アツ子
バスツアー襟に派出めく赤い羽根
服部 静子
コスモスや一気に駆ける岬馬
寺本 和子
先月の残暑が今日ほうそのよう
(中二) 渡辺 大寿
(中二) 渡辺 一史
秋日和心地よい風吹き抜けて (中二) 渡辺 一史

肥後狂句水笑会 10月例会

うっかり 回覧板の泊まっとなる
中島 五女
見当違い 禿とる方が秘書だった
神尾 凡骨
見当違い デジ放送もテレビたい
清原 英坊
夜の長さ 飲むかよなべか迷うとる
続 義昭
引き受けたそして我が家が破産した
井手 水光
うっかり 焦がした鍋のいさぎある
宮上 美由
見当違い 頼りにならん人だった
平井 江彩
夜の長さ 不眠症には耐えられん
吉岡 三水
とても好き フォークダンスで思い出し
御手洗三代
見当違い 子つくるだけの嫁ん来た
山隈 好茶

七城短歌会 10月詠草

起きしなに裏田に出でて手を叩く朝餉の早き雀ら
木下 陽子
飛び立つ 彼岸花田畦に連なり朱に染むる垂るる稲穂に感染
すばかりに 斉藤 芳子
窓越しに脱穀の音始まれば刈穂の香り部屋に満ち
満ち 村上 幾雄
招かれし洋上結婚披露宴孫よまさきく波乗りゆく
池田 禮子
刈払機の刃が刈る草の畦逸れて出穂期の稲の数茎
切りたり 佐々 重弘
庭畑の小豆色づき実りたり虫くいありてことごと
ちぎれぬ 水田紗陽子
蚊取線香残暑がつづく秋の夜にジョン小屋近くに
煙り見て据ゆ 緒方 寛子
稲刈りの体験応募の人達にふるまう豚汁厨に匂う
高木 精
冬野菜種子蒔き近まる庭畑を息が汗拭きつつ耕ち
起こしいる 森 道子
庭先のピンクに咲き満つ夏水仙好める夫の病室に
挿し活く 吉間 充子

旭志文芸俳句会 10月詠草

黄金波千の風なるうねりかな 水谷 ミネ
さわやかな風に癒さる言の葉よ 芹川 蓉子
峡の田に五輪の案山子はでに立つ 芹川のり子
俵山芒コスモス風靡き 郷 ミヤ子
明けやらぬ朝の星空虫すだく 出田みどり
新発意経朗々と秋彼岸 東 芳子
国道は眠ることなし夏の月 中尾ヨシコ

